

次期国際認証に対するアンケート結果について

基本情報

対象者：セーフコミュニティ対策委員会委員 115 名（うち 16 名が複数の委員会に在籍）

総 数：96 名

回答者：86 名 回答率：89.6%

【1】委員になって何年目ですか？

- | | |
|-----------|-------------|
| 1年未満 | ： 26名 (30%) |
| 1年以上～3年未満 | ： 32名 (37%) |
| 3年以上～5年未満 | ： 16名 (19%) |
| 5年以上 | ： 12名 (14%) |

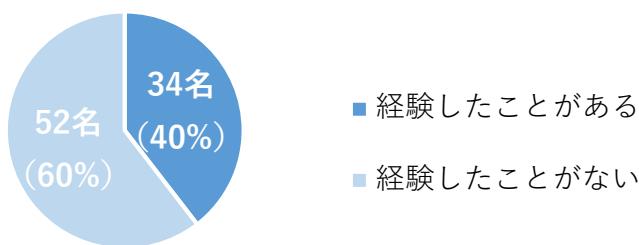
【2】所属を教えてください。（複数回答可）

行政関連：33名 校区コミュニティ組織関連：21名 市民活動団体：12名 その他：22名

【3】現在、所属している対策委員会名を教えてください。（複数回答可）

対策委員会	回答者数	定員数
交通安全対策委員会	12名	16名
児童虐待防止対策委員会	13名	14名
学校安全対策委員会	12名	13名
高齢者の安全対策委員会	11名	14名
防犯対策委員会	17名	20名
DV防止対策委員会	12名	14名
自殺予防対策委員会	12名	15名
防災対策委員会	8名	9名

【4】これまで、国際認証の審査や事前指導を経験したことがありますか。



**【問 1】久留米市全体でセーフコミュニティに取り組んできた成果は何だと考
えますか。(複数回答可)**

セーフコミュニティの取組を通じて、 他の団体等と協働で取り組むことができた	38 名	44%
重点取組分野での安全安心の取組が向上した	37 名	43%
セーフコミュニティを通じて、「予防」の重要性を 市民に伝えることができ、市民の安全安心の取組が向上した	33 名	38%
S+PDCA サイクルを活用し、客観的なデータを基に、 安全安心の取組を進めることができた	19 名	22%
その他	3 名	3%

2 国際認証について

【問 2】国際認証を取得することの良い点は何だと思いますか。(複数回答可)

安全安心のまちづくりに取り組むシンボルとして、 「セーフコミュニティ」という言葉を使って PR ができる	50 名	58%
国際認証を取得した都市として、内外に広くアピールできる	39 名	45%
取組に対して、第三者による客観的な評価がされる	30 名	35%
国際認証という目標があることによって、活動の励みとなる	27 名	31%
海外の推進自治体の取組を参考にでき、刺激を受けることができる	10 名	12%
その他	2 名	2%

【問 3】国際認証を取得することの良くない点は何だと思いますか。(複数回答可)

国際認証は、認証を取得すること自体が目的となりがちである	39 名	45%
国際認証の審査や事前指導を受ける年は、プレゼン資料の準備などの 労力がかかる	24 名	28%
国際認証は、負担や費用がかかる割には、安全安心のまちづくりを 市民に広げるという効果は期待できない	19 名	22%
国際認証を取得すると、安全安心のまちづくりの取組が、 重点分野だけに限られてしまう	7 名	8%
国際認証の審査や事前指導を受ける年は、プレゼン資料等の協議を行 うため、安全安心のまちづくりに関する話し合いが減ってしまう	5 名	6%
その他	5 名	6%

【問4】問2、問3を踏まえてお答えください。今後も、協働による安全安心のまちづくりを進めていきますが、国際認証を取得する必要があると思いますか。

必要である	21名	24%
どちらかといえば必要である	27名	31%
どちらかといえば必要ではない	9名	11%
必要ではない	3名	4%
必要かどうか分からず	18名	21%
回答なし	8名	9%

(理由) 必要である・どちらかといえば必要である

○PR効果：国内外に向けて「セーフコミュニティ」としての活動を広くアピールできる。

- ・国際機関から認証を受けることは、内外へのアピールになるため。
- ・安全安心のまちづくりに取り組むシンボルとして、「セーフコミュニティ」という言葉を使ってPRができる活動の励みになる。
- ・国際認証を取得することの大変さはありますが、8部門に特化してそれぞれ探索探求して「安全安心のまち久留米」を目指すところに大きな意義があると思います。
- ・安全安心のまちづくりは日常の啓発活動が必要であり、そのシンボルとして、国際認証取得は大変意義がある。
- ・久留米市を内外にアピールする際に非常に有効だと思います。
- ・久留米市が安心安全の住みやすい街である事をアピールしていく為に必要だと思います。
- ・久留米市人口増加の為に、福岡市民にベッドタウンとして久留米市が居住に適していると宣伝できる。
- ・取得により内外にもアピールできる。
- ・取得都市としてアピールできるため。
- ・認証による市民への周知度合いは高いと思うから。

○客観的評価：第三者による評価が得られ、信頼性が高まる。これは市民に対する透明性や、行政への信頼感を向上させる。

- ・市民協働というスタンスに科学的根拠という俯瞰的視点が加わるから
- ・国際機関から認証を受けることは、取組自体が評価され、認証基準に合致していることの証明になる。
- ・取組に対して第三者による客観的な評価がされるので。

○活動の指針：認証取得を目指すことが活動のモチベーションとなり、各委員会がより多くの成果を出すための目標となる。

- ・国際機関から認証を受けることは、今、何を求められているのかの指標を知ることができる。
- ・国際認識という目標があるため、安心安全の意識が高まる。結果として、各対策委員会の成果も出ている。
- ・取り組み内容とその成果を年々比較し、さらなる取り組みにつなげることができる。
- ・活動の励みとなる。
- ・安全安心のまちづくりへの市への一つの評価だと思われる。
- ・行政、市民、医師会、大学等、様々な組織が一つの目標に向かって、目標を掲げて実現することができる。何よりも市民の安全安心を守ることができる。第三者による客観的評価を得ることができる。
- ・前述の活動等への動機づけになっている。
- ・継続して取り組むことに意味があると考えるため。
- ・取り組みによって、各団体の活動が活発になったとみられる。その効果は大きい。一方で事務量など、本質的ではない部分での負担があり、相殺してやや必要があるとした。
- ・活動の目標になるので。
- ・取組みのきっかけにはなっていると感じる。長期的な取組みの結果の検証はこれからになると思われる。

○その他の理由

- ・安全安心は生涯の目的であり、長寿生活、長寿社会、長寿のとりくみ等必要不可欠なものである。
- ・安全で安心して暮らせる久留米まちづくりを目指す
- ・DV の予防、啓発の取り組みを行っていくうえで、まだ未実施の領域へのコンセンサスを得やすくなる。
- ・各委員会での取り組みを知る事ができる。
- ・久留米市は、福岡県南部の中核都市であるから、国際認証を取得するのは当然であると考える。
- ・日本での子供達の教育は、十分に達していると思いますが、安全安心のまちを目指してはいますが、まだまだ不登校の子供達が多いです。家庭？学校？どこに原因があるかわかりませんが、1人でも登校してくれること願います。
- ・行政、市民が一体となって取り組むべきテーマであり、どちらかだけで達成できるものではないから。
- ・関心度が高まっていくと思うので、続けて取り組むことが大切と思っています。

- ・認証は必要だと思いますが、久留米市全体にどれくらい浸透させて行けるのかが大きな課題だと思います。
- ・行政を含めて、モチベーションアップにつながるため。
- ・労力がかかる事は否めないが、認証を取得する為の取り組みとして様々な団体を協働している現状がある。この関係性が担保できるのであれば認証取得の考え方を変えて良いと思うが、そうでなければ認証取得は必要であると考えます。
- ・デメリットももちろんあるがあることによってのメリットが大きいので必要だと思います。
- ・国際認証を取得した都市としてのネームバリューは必要と思うが、その効果は不確定なものと思うから。
- ・久留米市が「セーフコミュニティ」に取り組み、安全安心のまちづくりに重点を置いた都市として、安心出来ると思います。

(理由) どちらかといえば必要ではない・必要ではない

○認証取得が目的化するリスク：認証そのものが目的となり、実際の活動が二の次になってしまう懸念がある。

- ・取得することが目的となっては本来の目指すところがうすれてしまうから。
- ・セーフコミュニティの役割は一定終えていると考える。次の取組に移行して良いのではないか。

○労力や経費の負担：認証取得には多くの事務的作業や準備が必要で、関係者に負担がかかる。その結果、他の重要な活動に支障をきたすこともある。

- ・認証経費を安全安心の取組みに使う方が良い。
- ・国際認証はあくまでも PR に過ぎないといった印象があり、認証を受けていなくても市民のためにできることはあるのではないかと思う（認証を受けるための労力を削減）。

○効果の不確実性：認証を取得することで得られる具体的な市民の安全性への影響が不明瞭な場合がある。

- ・もともと取組があったところに SC が後付けされたように感じており、SC がなくて安全安心なまちづくりはできると思うから。
- ・各機関、団体等との協働による取組は、継続、充実を図る必要があると考えていますが、その取組を進めるために国際認証が欠かせないものとは思えないから。
- ・国際認証を受けなくとも、ケガや事故の予防の取組はできるため。
- ・国際認証がなくても、すでにあるノウハウをもとに同様の取り組みが可能であると考えられるため。

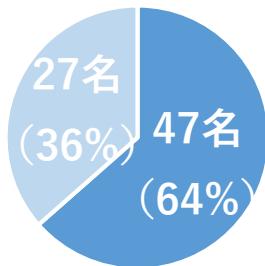
- ・取り組んでいる現場での活動には取得した効果はないと感じます。
- ・SC という枠組みでなくても、取り組んでいる内容なので (SC があるからやっているというわけではない) 同じように体系化すれば、自前でやることは十分可能。
- ・国際認証を取得することで人の生活や意識の変化につながっているのかが見えない。広報とか周知の仕方の問題とも思いにくい。安全安心は、社会構造的な問題であり、検証の仕方の問題とも思いにくい。効果は直接事業を担っている人だけのものにとどまっている。
- ・ワークショップで出た案やこれまでの協議内容の整理があると良いと思います。また今後実現できるものを実現することの方が国際認証を取得するかどうかよりも市民の生活の安全に繋がる。

3 対策委員会の運営について

【問5】これまでの対策委員会の運営について感じていることは何ですか。（複数回答可）

委員会には、様々な立場の人が参加しており、自分が行っている分野のまちづくりについて勉強することができた	44名	51%
委員会には、様々な立場の人が参加しており、つながりができた	21名	24%
委員会でのワークショップや合同対策委員会でのグループワークなど、活発な協議を行うことができた	18名	21%
委員会の開催が少なく、深い議論ができない	11名	13%
行政主導の委員会となっており、委員の活発な意見が出されていない	8名	9%
対策委員会のメンバーが変わるので、取組の継続性や質が担保できない	7名	8%
セーフコミュニティの対策委員会と似たような会議があり、いずれにも出席せねばならず、負担が重い	5名	6%
委員会の開催が少なく、委員同士のつながりができない	3名	3%
その他	6名	7%

【問6】まちづくりに関する話し合いの機会を増やすため、対策委員会の開催回数が増えても参加できますか。



- 回数が増えても参加できる ■ これまで以上に回数が増えたら参加できない

自由記述欄

- ・是非、今後も久留米市民のためにも継続していただきたい。
- ・認証により目標ができれば各々の取組も活発になるが事務局の事務量が大変多くなっているのではないか。各委員が掛け持ちして会議に参加する必要があるため、仕事や家庭との兼ね合い、調整が必要となっている。
- ・児童虐待防止対策委員会の一員として赤ちゃん訪問も地域に拡げて行けたらと思うが、中々難しい地域があるのと、地域担当の保健師さんとの関わりにも、差があるように感じています。
- ・中学校での赤ちゃんふれあい出前サロンも、学校との調整が難しい地域があり、学校教育課との連携も必要ではないかと思っています。
- ・委員会の開催は、恐れ入りますがせめて1ヶ月前までに連絡あると助かります。やはり、仕事の都合で早めに言って頂けたらなんとか段取りの方つきますので。
- ・問6について、開催回数を増やす場合の目安が提示されていないので回答が難しいです。
自由記述欄について、特にありません。
- ・問6について、仕事の兼ね合いがあるので難しいです。都合がつく時は参加します。
- ・問6について、今まで位で丁度良い。自由記述欄について、私自身も反省しますがもっと積極的に行うようにしたい。多くの方にしつてもらう為チラシの配布などしたい。(募集など) ポスター、標語、学校の生徒にもくばってほしい。
- ・市民に直接働きかけ潜在的な差別意識にアプローチできるような広告を掲示したいと考えています。

- ・DV の予防、啓発の分野において、今まで公式の統計では扱われてこなかった分野でも、民間団体として経験的に被害が起こっていることを知っている領域がある。全ての人々に DV の予防、啓発の取り組みを届けていくために、従前の取り組みを踏襲していくだけでは、届けることができないことをこの間感じてきた。今期の SC の大きなテーマとして取り組んでいきたい。
- ・まだまだ市民の方にセーフコミュニティの事が浸透していないように思います。私自身も尋ねられてもしっかり教える事が出来ていませんので、これからもしっかり勉強して普及に少しでもお手伝い出来たらと思っております。
- ・うきは警察署が参加するのであれば田主丸総合支所の職員も参加すべきと思います。
- ・セーフコミュニティの防犯対策委員会に参加していますが、セーフコミュニティの取組や組織の全体をつかみきっていない。全体が判るような冊子があれば、入手したい。

報告事項(2)

みんなでセーフコミュニティ賞について

1 趣旨

久留米市が市民協働で取り組んでいるセーフコミュニティにおいて、更なる裾野の拡大や見える化の充実を図るため、セーフコミュニティの重点分野・重点取組項目において、活発に活動している市民（団体・個人）の皆様を対象に、「みんなでセーフコミュニティ賞」を授与します。

2 受賞者

各対策委員会において、下記のとおり認定されました。

対策委員会	受賞者（敬称省略）
児童虐待防止	ツインズクラブ
高齢者の安全	特定非営利活動法人にこにこ会
防犯	日吉校区まちづくり振興会 青沼 誠
防災	竹野校区まちづくり振興会
防災	特定非営利活動法人 Y N F

※各受賞者の活動実績は、別紙をご参照ください。

3 授賞式

12月20日（土）10：30～ 市役所2F くるみホール
セーフコミュニティ標語表彰式と同時開催

活動実績

(ふりがな) 団体名または 氏名	ついんずくらぶ ツインズクラブ 代表 村井 麻木	
住所または 所在地	久留米市南薰町 活動場所：南部保健センター、宮ノ陣環境交流プラザほか	
経歴	期間	経歴の内容
	H14.3.30～現在	ツインズクラブ設立
	H14.3.30～H20.3.31	福岡県久留米保健福祉環境事務所と連携
	H20.4.1～現在	久留米市との連携開始
	H29.6.1～現在	久留米市産前産後サポート事業受託
	R2.4.1～現在	健診等サポート事業受託
	R2.10.1～現在	久留米市支援対象児等見守り強化事業受託
活動概要	<p>多胎児（双子、三つ子など）を安心して妊娠、出産、育児できるよう支援する団体。平成14年から、多胎児育児経験者による、家庭の実情に沿った、きめ細やかで温かいサポートを続けている。</p> <p>多胎児妊娠は、妊娠期の異常発生率が単体妊婦よりも高く、育児期においても身体的、精神的、経済的負担が大きい。ツインズクラブは、設立時より多胎妊娠特有の不安や悩みを共有し、久留米市こども子育てサポートセンターと連携しながら支援を実施している。</p> <p>平成29年度から「久留米市産前産後サポート事業」、令和2年度から「健診等サポート事業」、令和5年度から「多胎妊娠マイサポーター事業」を受託し、先輩ママが家庭訪問して体験談を話したり、授乳やお風呂の入れ方と一緒に考えたり、乳幼児健診や予防接種を補助したりするなど、家族のピアサポーターとして妊娠中から出産、産後の生活、子育て期と多様な側面から家庭の課題解決の一助となっている。</p> <p>さらに、多胎児育児が落ち着いた方が支援者側になる等、循環型支援体制の構築を図りながら、活動の充実・拡大を進めており、多胎児家庭が孤立しないよう多胎妊娠婦に寄り添い、地域に密着した支援を展開している。</p> <p>また、多胎育児特有の困難さや負担感に基づく虐待リスクを早期に察知し、母子保健担当、虐待対応担当部署と連携した活動は、児童虐待防止の一端を担っている。</p>	

活動実績

(ふりがな) 団体名	とくていひえいりかつどうほうじん にこにこかい 特定非営利活動法人 にこにこ会	
所在地	福岡県久留米市西町 195-1	
経歴	期 間	経歴の内容
	平成 7 年 12 月 ~	にこにこ会 設立
	平成 13 年 8 月 ~	NPO 法人格を取得
	平成 24 年 ~	福岡県社会福祉功労者感謝状を受ける
	平成 27 年 ~	にこにこカフェオープン (令和 2 年より金曜カフェ)
	平成 29 年 ~	久留米市より ふるさと市民賞表彰
	令和 4 年 ~	福岡県より 多年のボランティア活動表彰
	令和 4 年 ~	久留米市社協より 社会福祉の推進の感謝状
	令和 6 年 ~	厚生労働大臣より 多年のボランティア活動表彰
活動概要	<p>◆活動の目的：認知症の高齢者やその家族に対して、親睦融和を図るための 情報交換、相談等の相互支援事業などを行い、地域社会における高齢者 福祉の増進に寄与する</p> <p>◆会員数：31 名（令和 7 年 10 月 1 日現在）</p> <p>◆代表者：岩坂 茂子</p> <p>◆主な活動</p> <p>定例会・理事会・総会</p> <p>○定例会（おしゃべり会）月 1 回 30 年開催 毎月第 2 水曜日 13:00~15:30 久留米市総合福祉会館 現在の認知症当事者・介護者、介護経験者が集まる定例会を開催</p> <p>○理事会：役員で月 1 回開催</p> <p>○総会：年 1 回、市総合福祉センターにて総会を開催</p> <p>介護者の相談等</p> <p>○認知症介護電話相談：毎週日曜日 10:00~15:00（年 51 回） 介護をされている方達からの相談を受けている。</p> <p>○金曜カフェ：月 3 回金曜日 13:00~15:30 総合福祉会館において、気軽に集まれる当事者同士の集いの場を開催</p> <p>講演会・勉強会・周知活動等</p> <p>○講演会・出張講座：不定期で映画観賞会、出張講座、セミナー、シンポジウムなどを開催し、家族介護に関する情報を発信</p> <p>○認知症講習：小学生や久留米大学医学部看護学科の学生を対象に認知症や本人、ご家族の気持ちなどについて講話</p> <p>○勉強会：電子機器を使ったコミュニケーションや大人用紙おむつ、任意後見、終活、施設見学などの勉強会などを実施</p> <p>○会報の発行：年 4 回会員向けの冊子を発行し、コミセンや地域包括市民センターなどの福祉関連施設に配布。</p> <p>○アルツハイマー：毎年 9 月、世界アルツハイマーに合わせ西鉄久留米駅で冊子等を配布</p>	

活動実績

(ふりがな) 団体名又は氏名	あおぬま まこと 青沼 誠	
住所または 所在地	久留米市櫛原町	
経歴	期間	経歴の内容
	H3. 4 ~ 現在	日吉校区防犯協会 会員
	H4. 5 ~ R6. 3	日吉校区交通安全協会 副会長
	H13. 4 ~ H24. 3	日吉校区警察少年指導員
	H13. 4 ~ R1. 3	日吉校区少年育成指導員
	H19. 4 ~ 現在	日吉校区防犯協会 会長
	H24. 4 ~ 現在	日吉校区まちづくり振興会役員生活環境部部長
	R7. 4 ~ 現在	日吉校区交通安全協会 会長
活動概要	長年にわたり、日吉校区の防犯協会や交通安全協会に所属し、校区での防犯思想の普及や子どもの見守り、各種防犯活動などに携わった。 特に、体育大会や成人式など地域で開催される行事における防犯活動、年末夜警や暴力団壊滅久留米市民総決起大会への参加、年4回行われる交通安全県民運動期間の日吉小学校児童の見守り活動など、防犯の分野に限らず、交通安全の分野でも活発に活動し、地域住民が安全・安心に過ごせるように熱心な活動を行っている。 地域への貢献も大きく、地域住民からも信頼を寄せられており、その功績は顕著である。	

活動実績

(ふりがな) 団体名または 氏名	たけのこうくまちづくりしんこうかく 竹野校区まちづくり振興会	
住所または 所在地	久留米市田主丸町竹野2134-1	
経歴	期間	経歴の内容
	H24. 4. 1 ~ 現在	竹野校区自主防災会結成
	~	
	~	
	~	
	~	
	~	
	~	
活動概要	<p>竹野校区では、平成24年に自主防災組織を結成し、校区・自治会での防災活動に努めてきた。</p> <p>令和5年7月に発生した大きな土砂災害を受け、この自主防災組織を再構築し、現在では定期的な自主防災会議の開催を通じて各自治会における土砂災害・浸水危険マップの作成や、市やNPO団体のYNFと連携した防災まち歩きなど、再びの災害に備えたさまざまな事業に精力的に取り組んでいる。</p>	

活動実績

(ふりがな) 団体名または 氏名	とくていひえいりかつどうほうじん わいえぬえふ 特定非営利活動法人 Y N F	
住所または 所在地	福岡県福岡市西区生の松原 1 - 17 - 7 - 301	
経歴	期間	経歴の内容
	H29. 7. 8 ~ 現在	団体設立
	H29. 8 ~ 現在	九州北部豪雨支援（朝倉市）
	H30. 7 ~ 現在	平成30年7月豪雨支援（福岡県、愛媛県）
	R1. 8 ~ R1. 9	令和元年8月豪雨支援（佐賀県）
	R2. 7 ~ R3. 3	令和2年7月豪雨支援（久留米市、大牟田市）
	R3. 8 ~ R4. 2	令和3年8月豪雨支援（久留米市）
	R4. 10 ~ 現在	台風14号支援（宮崎県）
	R5. 7 ~ 現在	令和5年7月豪雨支援（久留米市）
	R6. 1 ~ 現在	能登半島地震支援（石川県）
活動概要	<p>福岡市に拠点を置く被災者支援を活動目的とした特定非営利活動法人。平成29年に九州北部豪雨支援のために設立された。これまでに大雨被害では朝倉市、大牟田市、佐賀県大町町などを支援。</p> <p>久留米市では平成30年以降の大雪支援を行ったほか、特に令和5年7月の災害では発生以後2年にわたる被災者の生活再建支援や再発生に備えた要支援者対策を地元校区と合同で実施してきた。</p> <p>一貫して生活再建に携わってきたノウハウは高い評価を受けており、現在は能登半島地震において被災した珠洲市にも拠点を設けて支援活動を行っている。</p>	